

ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・レアル・コース(毎月分配型)／

米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

分配金のお知らせ

2017年6月7日

平素は、『ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2017年6月7日に決算を迎え、「米ドル・コース」につきましては、当期の収益分配金(1万口当たり、税引前。以下同じ。)を前回決算の200円から引き下げ140円と致しましたことをご報告申し上げます。

「日本円・コース」、「豪ドル・コース」、「ブラジル・レアル・コース」および「通貨セレクト・コース」の分配金につきましては、前回決算と同額と致しました。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《各コースの分配金（1万口当たり、税引前）》

	日本円・コース	豪ドル・コース	ブラジル・レアル・コース	米ドル・コース	通貨セレクト・コース
当期決算 分配金	90円	100円	70円	140円	100円
(前回決算 分配金)	(90円)	(100円)	(70円)	(200円)	(100円)
基準価額 2017年6月7日現在	7,565円	5,640円	4,214円	7,950円	4,847円

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

分配方針

『ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー』の収益分配方針は、以下のとおりとなっています。

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目録見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q1 なぜ、「米ドル・コース」の分配金が引き下げられたのですか？

A1 現在の基準価額の水準などを総合的に勘案した結果、今後も継続した分配を行い、信託財産の着実な成長をめざすためには、分配金の引き下げが必要との判断に至りました。

弊社の分配金の考え方は、ファンドの収益分配方針、インカム性収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を総合的に勘案して分配金を決定するというものです。

「米ドル・コース」の分配金を引き下げましたのは、現在の基準価額の水準などを総合的に勘案した結果によるものです。

当該コースは第56期決算(16/6/7)において、円高米ドル安が進み、基準価額の水準も低下してきたことから、分配金を従来の300円から200円に引き下げました。その後、米国株式市場や米ドルの対円為替レートは堅調に推移していますが、分配金の支払いなどにより、当該コースの基準価額は軟調な推移となっています。

足元の分配金と基準価額の水準などを考慮し、今後も継続的な分配を行い、基準価額の下落を抑え信託財産の成長をめざすためには、分配金の引き下げが必要との判断に至りました。今回、分配金を引き下げたことによる差額はファンドの純資産に留保されることとなります。

《基準価額・純資産・分配の推移》

【米ドル・コース】

2017年6月7日現在

基準価額	7,950円
純資産総額	138億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～63期	合計:	10,390円
第64期	(17/2/7)	200円
第65期	(17/3/7)	200円
第66期	(17/4/7)	200円
第67期	(17/5/8)	200円
第68期	(17/6/7)	140円
分配金合計額	設定来:	11,330円
	直近5期:	940円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

Q2 分配金はどのように決定したのですか？

A2 分配金は、収益分配方針に基づいて、今後数期にわたって継続できるよう配慮して決定しています。ただし、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

当ファンドの収益分配方針において「原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。」と定めています。当該方針に基づいて分配金は、今後数期にわたって継続できるよう配慮して決定しています。ただし、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、現在の分配金の水準を維持できない、あるいは分配金が支払われない場合があります。特にインカム性収益の低下、基準価額の下落などは分配金の引き下げ要因となります。

Q3 分配金を事前に知ることはできないのですか？

A3 決算日(毎月7日、休業日の場合は翌営業日)の夕方から夜にかけての公表までは、分配金をご確認いただくことはできません。

分配金は事前に決定しているものではなく、ファンドの決算日(毎月7日、休業日の場合は翌営業日)に、ファンドの収益分配方針、配当等収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を勘案して委託会社(大和投資信託)が決定します。したがって、事前にお知らせすることはできません。

なお、委託会社のホームページ(<http://www.daiwa-am.co.jp/>)では、夕方から夜にかけて基準価額とともに分配金を公表しますので、そちらをご参照ください。

Q4 分配金を引き下げるとことは、今後の運用に期待できないということですか？

A4 分配金の引き下げは、今後の運用実績とは何ら関係するものではありません。

今回の「米ドル・コース」の分配金引き下げについては、現在の基準価額の水準などを総合的に勘案し、決定しました。したがって、今回の分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。なお、運用成績は、分配金に加え基準価額の動きも含めたトータルリターン(総収益率)で確認する必要があります。引き続きパフォーマンスの向上をめざしてまいります。

Q5 最近の投資環境と今後の見通しについて教えてください。

A5 トランプ政権による政策の実効性ならびに政権の安定性について懸念は残りますが、減税策や規制緩和策が履行されれば、成長を大きく促進する材料となり、今後も米国経済の成長は続く見込まれます。

【投資環境】

株式市況

米国株式市況は、2016年6月下旬に、英国国民投票においてEU(欧州連合)離脱派が勝利したことから大幅に下落しましたが、その後各国の中央銀行が対策を講じるとの見方が広がったことを受けて反発する展開となりました。8月から10月にかけては上値の重い値動きとなりましたが、米国大統領選挙では共和党のトランプ氏の当選が決まり、11月以降はトランプ氏の政策に期待が集まるようになって、経済成長とインフレが加速するとの楽観的な見方が広がり上昇しました。2017年に入っても、2月上旬から3月初めにかけて、米政府による金融規制緩和に向けた動きを好感したほか、トランプ大統領が大幅な減税策を打ち出すことを示唆したことから、財政刺激策への期待が高まり上昇しました。その後5月下旬にかけては、比較的狭い範囲内での推移となりました。

為替市況

米ドルの対円市況は、2016年6月から10月にかけては比較的方向感のない動きとなりましたが、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利すると、同氏の経済政策への期待感などから市場のリスク選好度が強まり、上昇しました。12月に入っても、OPEC(石油輸出国機構)総会において減産が合意され、原油価格が急騰したことなどをを受けて続伸しました。2017年1月から3月にかけては、米国の貿易赤字解消を積極的に目指すトランプ大統領の姿勢から米ドル高への警戒感が強まったことや、オバマケア(医療保険制度改革)代替法案の審議が難航し採決を断念したことなどを受けて、米ドル安円高が進みました。4月中旬から5月上旬にかけては、フランス大統領選挙の結果から欧州政治に対する警戒感が後退したことなどを背景に、反発しました。

【今後の見通し】

株式市況

トランプ政権発足以来、政策の恩恵を受けると考えられるセクターを中心に買いが集まりました。その勢いは当初に比べて落ち着きを見せているものの、米国株式市場は力強い上昇を続けてきました。トランプ政権による政策の実効性ならびに政権の安定性について懸念は残りますが、減税策や規制緩和策が履行されれば、成長を大きく促進する材料となり、今後も米国経済の成長は続く見込まれます。

為替市況

今後、減税やインフラ(社会基盤)投資などの経済政策が実施され、リスク資産価格や金利が上昇した場合には米ドル高が進むと考えられます。また、賃金の上昇圧力も高まっており、FRB(米国連邦準備制度理事会)による着実な金利正常化が米ドルを下支えするとみています。一方、トランプ大統領のロシアとの不透明な関係を巡る疑惑への懸念が一段と高まる局面では、円高米ドル安が進むと考えています。

以上

※ドイツ証券のコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

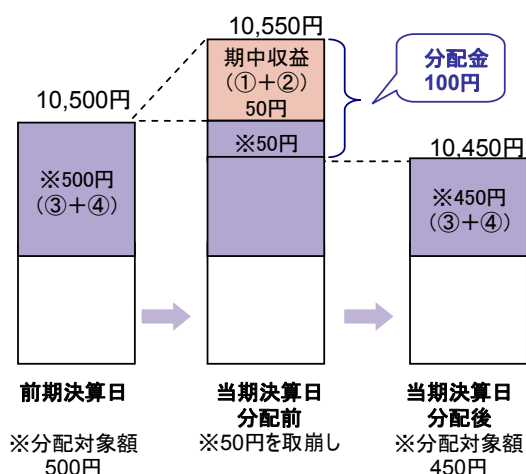
投資信託で分配金が支払われるイメージ



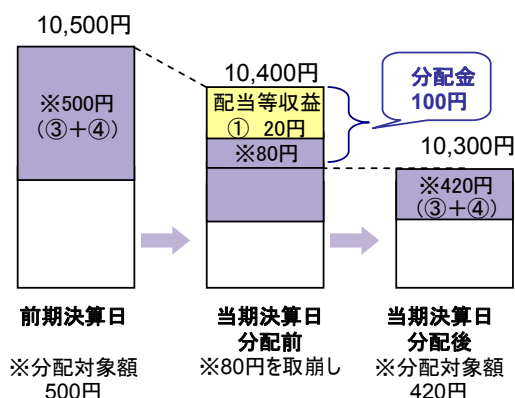
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



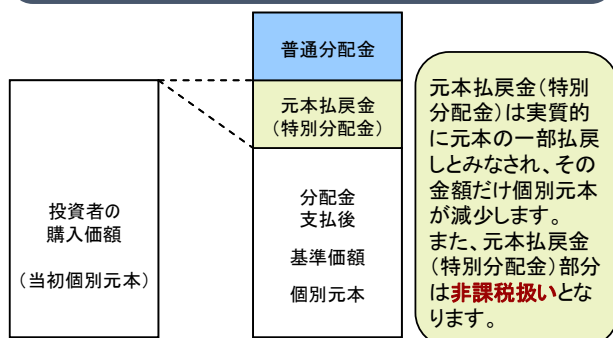
前期決算日から基準価額が下落した場合



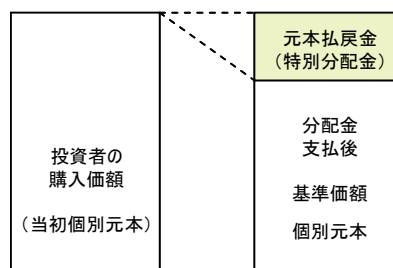
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

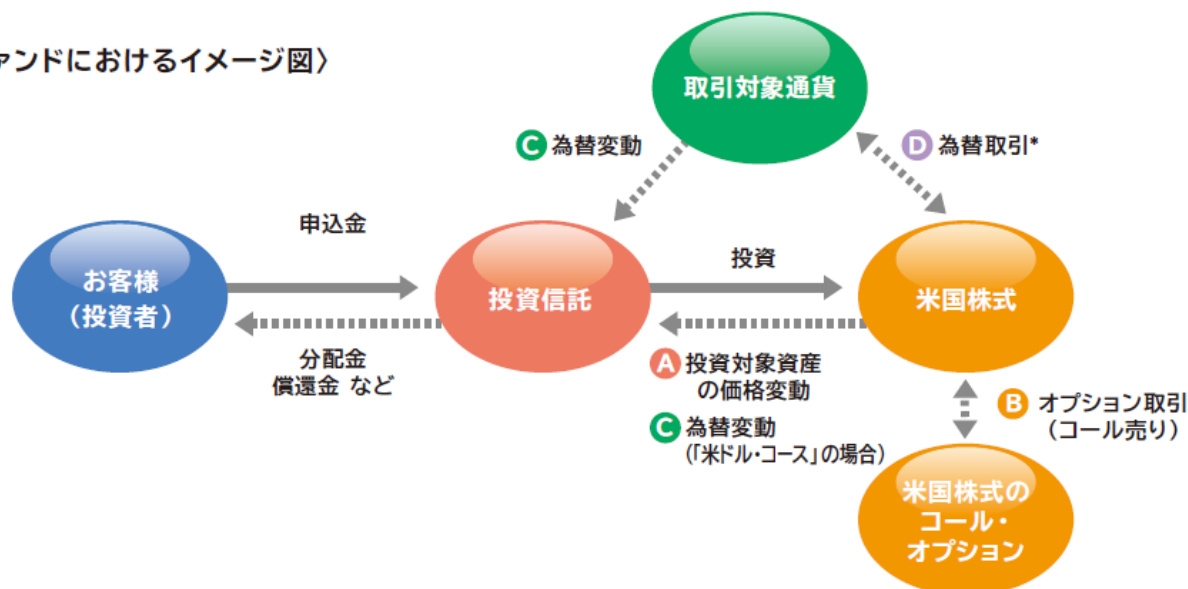
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。
- 当ファンドでは、米国の株式に投資するとともに、個別株オプション取引および為替取引を活用します。

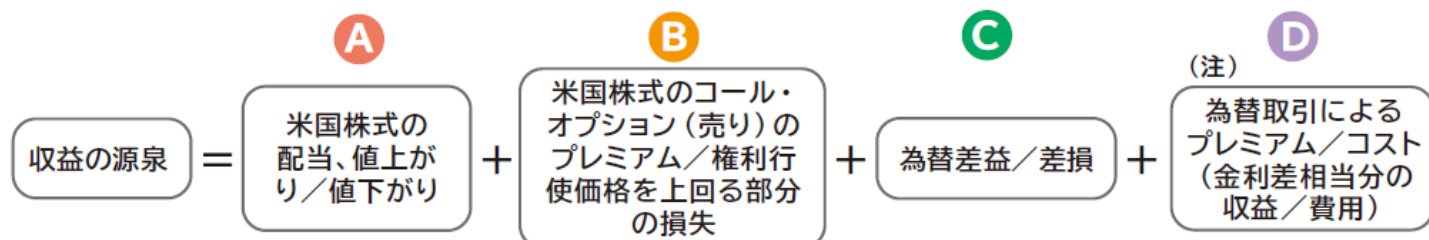
〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

- 当ファンドの収益源としては、以下の要素が挙げられます。

これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



収益を得られるケース	損失やコストが発生するケース	相殺
権利行使価格を上回る株価の上昇 株価の上昇、配当収入	株価の下落 ・発行企業の経営不安、倒産等	コール・オプション (売り) のプレミアムの受け取り 権利行使価格を上回る部分の損失の発生 ・権利行使価格を上回る株価の上昇
・円に対して取引対象通貨高 ・円に対して米ドル高 (「米ドル・コース」の場合) 為替差益の発生	・円に対して取引対象通貨安 ・円に対して米ドル安 (「米ドル・コース」の場合) 為替差損の発生 *「日本円・コース」を除きます。	取引対象通貨の短期金利 > 米ドルの短期金利 プレミアム (金利差相当分の収益) の発生 コスト (金利差相当分の費用) の発生 取引対象通貨の短期金利 < 米ドルの短期金利 *「米ドル・コース」を除きます。

(注) 為替取引を行なう際にNDF取引を利用することがあります。

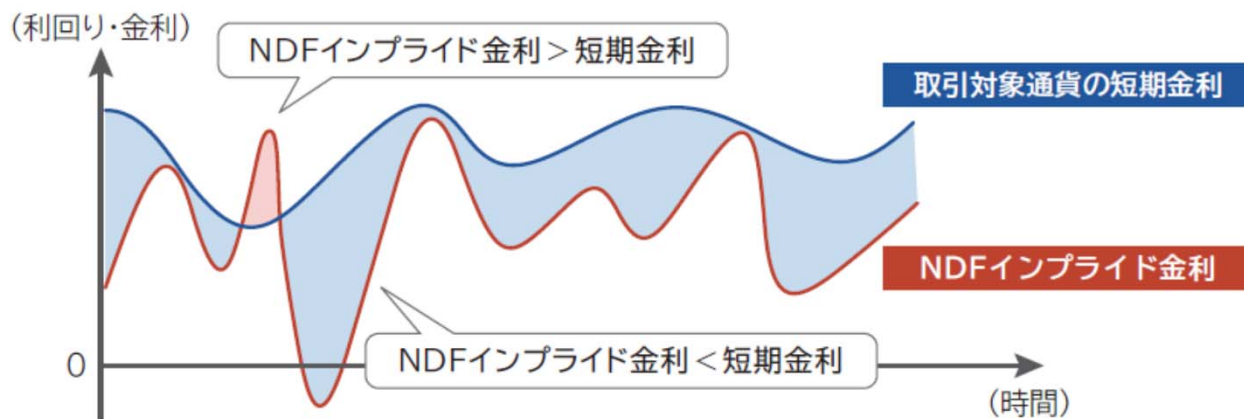
NDF取引を用いて為替取引を行なう際、為替取引によるプレミアム／コスト (金利差相当分の収益／費用) は、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

NDF取引とは

- ◆取引対象通貨を用いた受け渡しは行わず、米ドル等の主要通貨による差金決済を相対で行なう取引です。
- ◆NDF取引価格から算出される“NDFインプライド金利”は、市場の流動性が低く、割高や割安を是正する動き（裁定）が働きにくいことから、市場参加者の期待や需給などの要因により、**取引対象通貨の短期金利の水準から大きく乖離する場合があります。**

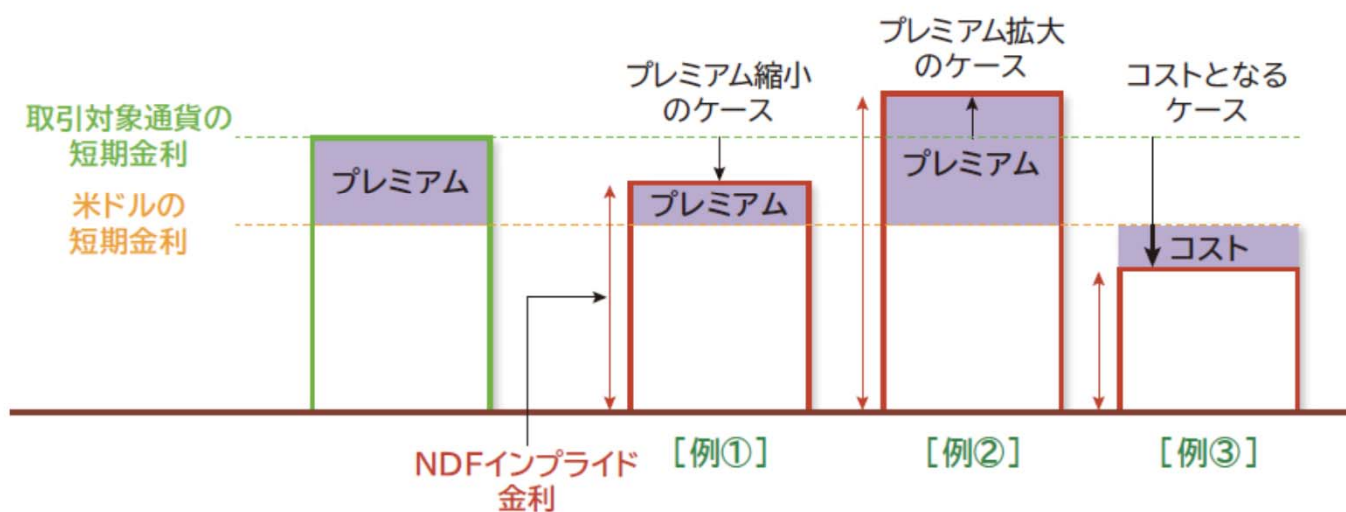
NDFインプライド金利と取引対象通貨の短期金利が乖離するイメージ



※上記はイメージであり、当ファンドのパフォーマンスとは異なります。

NDFインプライド金利の変動の影響

- ◆市場参加者の通貨上昇（下落）期待や需給などにより、NDFインプライド金利は低く（高く）なる可能性があります。NDFインプライド金利が取引対象通貨の短期金利より低く（高く）なると、**為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が縮小【例①】（拡大【例②】）し、場合によっては為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）となるケース【例③】**もあります。



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・レアル・コース(毎月分配型)／
米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。

◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。

コース名	為替取引の内容	取引対象通貨
 日本円・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／日本円買い	日本円
 豪ドル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／豪ドル買い	豪ドル
 ブラジル・レアル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／ブラジル・レアル買い	ブラジル・レアル
 米ドル・コース	—	—
 通貨セレクト・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／選定通貨買い	選定通貨

※5つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

- ◆「米ドル・コース」以外の各コースでは、為替取引を行なうことにより、「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- ◆「日本円・コース」では、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
- ◆「日本円・コース」以外の各コースでは、為替取引の対象通貨の対円レートの上昇(円安)／下落(円高)により、為替差益／為替差損が生じます。
- ◆「通貨セレクト・コース」において、選定通貨とは、以下の<通貨の運用方針>により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

<通貨の運用方針>

- 原則として、「シティ世界国債インデックス」および「JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケットズ ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。
- ※上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合もあります。
- 選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
- 選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・レアル・コース(毎月分配型)／
米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

- 毎月7日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
- 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
 - ◆外国投資信託の受益証券を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ないます。
 - ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。

- ◆各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
- ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 日本円・コース(毎月分配型)
：日本円・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 豪ドル・コース(毎月分配型)
：豪ドル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー ブラジル・レアル・コース(毎月分配型)
：ブラジル・レアル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 米ドル・コース(毎月分配型)
：米ドル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 通貨セレクト・コース(毎月分配型)
：通貨セレクト・コース
- ◆上記の総称を「ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー」とします。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- ◆当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。**したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「カバードコール戦略の利用に伴うリスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

＜日本円・コース＞

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

＜豪ドル・コース、ブラジル・レアル・コース、通貨セレクト・コース＞

※取引対象通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。新興国通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

※投資対象資産の通貨である米ドルの為替変動リスクを完全に排除することはできませんので、基準価額は円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、取引対象通貨の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

＜米ドル・コース＞

※組入外貨建資産について、米ドルが円に対して米ドル安の方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

※NDF 取引を用いて為替取引を行なう場合、コストは需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)／
米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限> 3.24%(税抜3.0%) スイッチング(乗換え)による購入時の申込手数料については、販売会社にお問い合わせください。	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	0.5%	換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除され、信託財産に繰入れられる額。換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.323% (税抜 1.225%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
投資対象とする 投資信託証券	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。	
	「日本円・コース」、「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」、「米ドル・コース」 年率 0.68%程度 「通貨セレクト・コース」 年率 0.83%程度	
実質的に負担する 運用管理費用	「日本円・コース」、「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」、「米ドル・コース」 年率 2.003%(税込)程度 (純資産総額によっては上回る場合があります。) 「通貨セレクト・コース」 年率 2.153%(税込)程度 (純資産総額によっては上回る場合があります。)	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問い合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」に記載しています。

販売会社:

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会